



2025年3月17日

各位

会社名 株式会社ビーアンドピー  
住所 大阪市西区江戸堀二丁目6番33号  
代表者名 代表取締役社長執行役員 和田山 朋弥  
(コード番号：7804、東証スタンダード市場)  
問合せ先 経営管理部部長 近藤 恵太  
(TEL. 06-6448-1801)

### 2025年10月期 第1四半期決算発表 質疑応答集

当社の2025年10月期 第1四半期の決算に関して、当社で想定した質問、および、株主や投資家などの方々からいただいたお問い合わせや感想について、当社からの回答を以下の通りお知らせいたします。なお、本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に当社が自主的に実施するものです。決算内容の詳細については、2025年3月10日に開示しております決算短信および決算説明資料をご覧ください。

**質問1： 利益拡大が顕著ですが、具体的にはどのような利益改善策を打ったのか教えてください。利益率も前年同期で+3.5ptと大きく向上していますが、現状の利益率を維持できるのか、もしくはさらに向上できる見込みがあるのかについても合わせて教えてください。**

当社の原価・経費の大部分は人件費や家賃等の固定費であり、固定費は売上の増加に比例して増加しないため、売上が拡大すると利益も拡大し、利益率が向上する傾向にあります。

当期において、営業面につきましては、既存顧客への提案強化、新規顧客獲得活動に注力しており、主力のインクジェットプリントに加えて、デジタルクリエイト、プリントソリューション、オーダーグッズの新規事業も着実に売上を拡大しております。生産面につきましては、業務標準化により属人化しない技術による「人に依存しない」生産工程の実現、スマートファクトリー化を推進し、生産設備の更新や品質管理体制の強化を行い、生産性向上に向けた取り組みを進めております。

今後も売上拡大、原価・経費の低減に向けた取り組みを継続し、現状の利益率を維持・向上することを目指します。

**質問2： 2023年10月期までは、四半期単位で売上高に波が見られましたが、2024年10月期は安定していました。2025年以降も落ち着いた推移となるのか、または大阪・関西万博等の大型イベントによっては以前のような傾向に戻る可能性もあるでしょうか。**

当社の主力はインクジェットプリントによる販売促進用広告物の制作で、例年国内企業の販売促進活動が活発化する3月（当社の第2四半期）及び9月（当社の第4四半期）の売上が伸び、逆に第1四半期と第3四半期は他の四半期と比較して業績の進捗が鈍くなる傾向があります。

ただし、新型コロナウイルス感染症の影響から国内経済が回復し、消費活動やインバウンド需要が活発化するなかで、2024年10月期においては各四半期の受注が伸びました。2025年10月期第1四半期につきましては、大阪・関西万博の開幕に向けた影響もあり、関西エリアを中心に企業の販売促進活動が活発化している印象があり、関連する販促広告物の受注は増加しておりますが、特別な大型案件は受注していないため、業績の変動に繋がる要因は少ないと考えており、国内経済状況に大きな変化がない限り今後も各四半期の受注は安定的に推移するものと考えております。

**質問3：M&Aしたイデイ社について、近年赤字だった主な要因を教えてください。また足もとの進捗度合と通期黒字達成に向けた確度を教えてください。**

イデイ社は広告・販促のエキスパートとして企画提案に強みを持っていますが、自社で生産設備を保有しておらず、広告物の制作は外注しているため、利益率が低くなり、近年赤字に陥っておりました。今回のM&Aにより、生産設備を保有する当社のグループとなったため、当社の生産力やサービスラインナップとイデイ社の販路や企画提案力を組み合わせることで、生産体制をもつ総合販促支援企業としてグループ一体で顧客への提案強化、受注拡大、利益率改善に努めており、イデイ社の損益は通期黒字達成に向けて期初の想定に沿って進捗しております。

**質問4：イデイ社のM&Aがありましたが、近い将来にM&Aの可能性はあるでしょうか。また、企業の選定にあたっての具体的なポイントを教えてください。**

M&Aにつきましては、今後の当社グループのさらなる成長及び企業価値の向上を実現させるために必要であると考えており、引き続き社内で編成したM&Aのプロジェクトチームによる各種情報収集や調査を積極的に行い、当社グループの事業との相乗効果、成長性、利益率等の観点から投資案件の調査を進めております。

以上